

P2-2-2 在宅生活をしているデュシェンヌ型筋ジストロフィーを呈する 利用者への環境制御機器導入の実践

万田 祥秀、小田 篤

周南リハビリテーション病院 リハビリテーション部

【はじめに】今回、デュシェンヌ型筋ジストロフィーを呈する利用者へ環境制御機器を導入した。結果として、利用者及び家族のQOL向上の一助となれたのでここに報告する。なお、本報告は利用者及び家族に発表の趣旨を説明し同意を得た。

【症例紹介】

A氏 30代 男性 要介護5

疾患名：デュシェンヌ型筋ジストロフィー

キーパーソン：母（2人暮らし）

生活環境：自宅自室ベッド上で生活を送る。非侵襲的換気療法として24時間呼吸器を装着している。週に1度デイサービスへ行っている（入浴の為）。その他は訪問看護、訪問介護を利用している。

身体機能

日本の生活様式による障害段階分類（上田）：Stage VIII 上肢機能の段階分類（上田、福屋）：Stage VIII

残存筋：母指対立筋、短母指外転筋、短母指屈筋、虫様筋は比較的保たれている。

残存能力：母指掌側外転、母指掌側内転、母指側外転、MP関節屈曲（2～5指）

A氏の母より「テレビ・CDや電動ベッドのリモコン操作が必要な度に呼ばれ、リモコンをA氏が操作できる位置にセットしなければならない。A氏が一人では出来ないことはわかっているが、つい嫌な顔をして時には口論にまでなってしまう。

A氏自身でリモコン操作が行えるようにしてほしい」と依頼があった。

【支援方法】

#1. 好きなときにテレビ・ビデオを観たい。CD/MDプレイヤーで音楽を聴きたい。

#1のニーズに対して①スイッチ学習リモコン②マイクロスイッチ ③熱可塑性樹脂（スプリント）④モノラグプラグ導入。

#2. 電動ベッドの操作を自分で行いたい。

#2のニーズに対して①スイッチ学習リモコン②マイクロスイッチ ③熱可塑性樹脂（スプリント）④モノラグプラグ

⑤赤外線式ベッドスイッチコントローラーを導入。

【結果】姿勢及びスプリントスイッチのセッティングは介助が必要であるが、中指にスプリントスイッチを装着すればテレビ・ビデオ、CD・MDプレイヤー、ベッドリモコンの操作は自立した。

【考察】在宅でベッド上で生活を送っているA氏にとってはテレビや音楽を鑑賞することが外部との繋がりを感じられる数少ない一つの手段である。環境制御機器があることにより自分の好きな時に好きな活動・参加を円滑に行えるようになった。そして、それがA氏と母親のそれぞれのQOL向上につながったのではないかと考える。今回、デュシェンヌ型筋ジストロフィーという身体機能の改善が困難である難病の利用者に対して介入を行い、満足を得ることができた。この事例を通じ作業療法士として環境面に視点を置き介入する事の重要性を改めて感じさせられた。今後は状態の変化により現在の環境制御機器が使用できなくなる可能性が考えられるため、適宜フォローを行う必要があると考える。